



北海道中札内高等養護学校 コミュニティ・スクール通信

中札内高等養護学校
CS(学校運営協議会)事務局
発行日:令和4年5月31日

令和4年度 第1回コミュニティ・スクール(学校運営協議会)開催

5月31日、今年度1回目の学校運営協議会が開催されました。

本校のコミュニティ・スクールは、『中札内村で生活し働く人材の育成』という長期目標を掲げて昨年度スタートし、1名が村内への就労を実現しました。

そして今年度は、卒業生の村内への就労・定住を進めるために何が必要なのかを、具体的な活動目標を設定し取り組むことを確認しました。

地域の皆様に学校が愛され、望ましい連携の形をお互いに考え、『進路支援体制の充実・発展』を進めていきたいと考えています。

今年度の進路動向

3月に卒業した生徒は、社会人としてのスタートを切ったところです。それぞれの環境で活躍している情報が少しずつ入ってきています。

昨年度、皆さんの前で話した六花の森工場に就労した生徒は、マルセイバターサンドのクッキーが1日10万枚焼きあがるラインに入り、クッキー部分を番重に崩さずに入れていく作業を行っています。工場長、ライン長さんからの評価はとても高く、戦力になっているとの評価でした。

現在の3年生の特徴としては、働く力（一般就労）はありますが地域での雇用が難しく、グループホーム等を利用する生徒が多い学年となっております。

現在、グループホーム及び宿泊型自立訓練施設等の利用を考えている生徒が8名おります。学年の2割に当たります。

今年度も中札内村役場さんから雇用のお話をいただいておりますので、就労を検討できるよう調整を進めていましたが、やはり生活する場の確保が難しいことがあり見送りをする形となっております。

ある生徒は、建築土木の仕事に興味があり、村内にある塗装店での就労を検討しております。今後、実習等を行いながら就労を目指しますが、生活する場がなく帯広のグループホームから通うことを前提に相談しております。朝の早い時間からの出勤（広尾線、稲田地区6時50分乗車）が必要となり、グループホームとしても対応が難しい等の課題があり、まだ生活する場は決まっておりません。このまま決まらなければ、実習等は行っていますが、最終的に帯広で別の就労先を検討することも視野に入れております。

今後も進路指導部としては、中札内村に貢献できる生徒に対して進路の検討を行っていきたいと考えております。課題はありますが中札内村とビジョンを共有しながら取り組んでいきたいと思っております。

今年度の活動目標

①「卒業生が村に就労するにはどのような目標が設定できるか。」

■5年で8名程度の就労を目指したい。

■定住は毎年1名、5年で5名を目標としたい。

- ・中札内村の企業様の話を聞いていると、難しい数字ではないと考える。
- ・学校に近い場所で就労したい生徒もあり、卒後支援も手厚くできる。
- ・村での就労を目指す生徒は、出身地域に働く場所が少ない町村の生徒が中心となる。

(教頭)

- ・先日高等養護学校の設置町村の会議があった。そこで他町村の事例が示されており、高等養護学校の就労数データを参考にしてみたい。
- ・今金町では、生徒の就労数に合わせてグループホームの空きを確保するなど行政、福祉、学校が連携しながら取り組んでいる。グループホームに入った生徒も2,3年後にはグループホームから出て地域で生活するなど好循環している事例がある。

(下浦総務課長補佐)

- ・村の雇用については考えられるが、卒業後すぐにアパートに一人暮らしは難しいと思うので、すぐに解決できる問題ではないと思う。

(教頭)

- ・村営住宅や六区にも空き住宅があるようだが、利用などは難しいのか。

(細岡みのり園施設長)

- ・村営住宅利用とは福祉サービスを利用しながらというのを想定しているのか。
- ・グループホーム生活後の、地域定着支援サービスというのはあるが、卒業すぐは想定していない。

(高桑保健福祉課長)

- ・既存の施設利用についても考えていく必要がある
- ・いろいろな場所で伝えていくことが大切であるが、ハード面の課題であり難しさはある。
- ・情報が共有されるなかで、生徒にとって何ができるか考えてくれる方もいると思う。

(細岡みのり園施設長)

- ・私たち福祉施設と村との連携が大切であると考えてる。

(鳥倉氏)

- ・率直にグループホームを作るとするのは難しいと感じた。
- ・卒業生は自動車の免許を取って通勤はできるのでしょうか。

(小田原進路部長)

- ・免許を取得する生徒はいるが、金銭的にも負担が大きいので、就労して安定した後になるのが基本です。

②情報の発信

(太田校長)

・村民が出入りする場に学校紹介のパネルを置いたり、製品を展示したりすることも考えられる。役場とも連携しながら活動を進めていきたい。

規約の改正について

- ・今年度から幕別分校の運営協議会設置に伴い、規約の改正（文言を整理）を行う。
- ・本校と分校を合わせて一つの協議会とするが、各校で部会を設置し活動を進めていきたい。
- ・部会にそれぞれ会長を置き、副会長は置かず、委員は合わせて15名とする。

校長挨拶

学校経営の基本方針には「地域社会に開かれ 頼りになる学校」とある。高等養護学校は相談支援のほかに、人材育成という大きな目標があり、中札内村、十勝で生きる人材育成のために教育活動を進めている。将来どのような目的で働いていくのか、自分たちがどのように地域と関わっていることなど実感できたらよいと考えている。

本日の協議では、本校が抱える課題を発信しながら理解していただくのが大切であると感じた。中札内に定住することで、村にとってどのようなメリットがあるのかなども整理していきたい。なお、本校のホームページには校長室便りを発信しているので、お時間があるときにご覧いただき、学校への理解を深めていただきたい。

令和4年度 学校運営協議会 委員

	氏名	所 属
1	加藤 雅人	中札内村教育委員会 社会教育主事
2	高桑 佐登美	中札内村役場 保健福祉課課長
3	下浦 強	中札内村役場 総務課課長補佐
4	河瀬 智憲	中札内高等養護学校 P T A 会長
5	吉倉 孝尚	中札内村商工会 会長
6	藤原 二郎	6 区町内会 会長
7	細岡 一男	社会福祉法人ボロシリ福祉会 障がい者支援施設中札内みのり園施設長
8	杉江 茂	中札内高等養護学校 援護会会長
9	藤田 勝彦	中札内高等養護学校 援護会理事
10	道見 ひろみ	地域住民の方（あんていー代表）
11	鳥倉 華以	地域住民の方
12	太田 千佳子	中札内高等養護学校 校長